

CHASE で収集すべき情報について 検討の方針及び枠組み（案）

検討にあたっての方針（案）

- CHASE は、介護領域におけるエビデンス構築に資するデータベースの構築を目指すにあたり、介護領域で発生するデータのうち、既存のデータベース（介護保険総合データベース及び VISIT）では収集されていないものを補完的に収集することを目的とする。
- CHASE で収集するデータは、その内容に基づき、①状態、②介入、③イベントの3種類に類型化する。

類型	例
状態	血圧、日常生活動作、認知機能・・・
介入	栄養指導、リハビリテーション、介助による入浴・・・
イベント	転倒、肺炎の罹患、施設からの退所・・・

- 検討にあたっては、収集、分析、評価のニーズの高さのみならず、
 - 標準的な評価指標やコードがある等、研究で取り扱いやすい形にまとめられるか
 - 介護現場の負担を増やさないまま収集できるか
 等、データの利用可能性を十分に考慮する必要がある。

特に、介護現場の業務負担の軽減が喫緊の課題とされている現状に鑑み、今回の検討において、ある情報を CHASE において収集すべきとする際には、情報収集の対象となる事業所の種別を特定するとともに、

- 対象となる事業所の大部分で既に電子的に取得されているもの、あるいは
- 一定程度の事業所において既に電子的に取得されており、その方法が簡便であって、他の事業所でも容易に導入、実施できると思われるものであることを原則とする。

- 一方、近年、科学技術の進歩（例えばポータブル端末・ウェアラブル端末によるデータ入力、音声認識、画像認識、テキストマイニング等）や評価手法の発展（例えば主観的幸福の定量的評価等）によって、研究においてデータとして取り扱うことのできる範囲が拡大しつつあることに鑑み、現時点では収集、分析、評価が技術的に困難でも、利用者への影響が大きいなど、収集、分析、評価のニーズが高いと思われるものがあれば、将来への参考として別に掲げることも考慮する。

検討の枠組み（案）

CHASEで収集すべき情報の検討を効率的に進めるため、次のような形式で行ってはどうか。

- ① 検討に先立ち、現在、介護領域において、通常業務の中で電子化されている、あるいは電子化して収集する簡便な方法が確立している情報にはどのようなものがあるかをヒアリングにより確認する。
- ② 各テーマの検討にあたり、テーマに関係する構成員から、別紙様式を活用し、構成員提出資料として案を提示する。（必要に応じ、別の資料で補足を行う。）
- ③ 検討会においては、当該案を出発点として、項目の追加や削除、具体化や明確化等を議論する。
- ④ 開催後、提出資料を作成した構成員は、検討会における議論を踏まえて案を仕上げ、座長に提出する。
- ⑤ 座長は提出された案をとりまとめ、検討会の中間取りまとめの資料とする。

介護現場から収集する情報（案）フォーム

分野：〇〇

状態に関するもの

標題	意義	定義、測定方法	収集・測定の頻度	情報ソース	仮説の例

・
・

(各列の解説)

標題	当該項目の内容を端的に表す記載（例）BMI
意義	当該項目がどのような状態を反映するか（例）肥満や痩せの状態を反映する。
定義、測定方法	（例）体重は体重計で、身長は身長計（柱に印を付けたもの等の簡便なものでもよい）で測定し、計算する。 （測定に必要な資格職がある場合はここに記載。）
収集・測定の頻度	（例）月1回
情報ソース	当該項目またはその一部について、現場で既に収集されている情報が活用できる可能性がある場合に記載 （例）施設入所者の場合、体重については介護記録にある可能性がある
仮説の例	当該項目について情報収集する上で想定される、介入と状態変化やイベント発生頻度等の関連に係る仮説。 （例）BMI〇以下の者に対して、月1回の栄養指導を行うと、BMIを〇以上にすることができる。

介入に関するもの

標題	定義	記録内容	情報ソース	仮説の例

・
・

(各列の解説)

標題	当該項目の内容を端的に表す記載 (例) 定期的なトイレ誘導
定義	何が満たされていれば標題の介入が行われたとするか (例) 利用者の尿意、便意に関わらず、1日に複数回、定期的に声かけをして、利用者をトイレへ誘導して実際に排泄を試みさせること
記録内容	当該項目について、どのような情報を記載するか (例) 声かけの頻度、実際の排泄の有無・・・
情報ソース	当該項目またはその一部について、現場で既に収集されている情報が活用できる可能性がある場合に記載 (例) 介護記録に記載されている可能性がある。
仮説の例	当該項目について情報収集する上で想定される、介入と状態変化やイベント発生頻度等の関連に係る仮説。 (例) 尿失禁、便失禁のある者に定期的なトイレ誘導を行うことで、尿失禁、便失禁の発生頻度が減る。

イベントに関するもの

標題	定義	記録内容	情報ソース	仮説の例

・
・

(各列の解説)

標題	当該項目の内容を端的に表す記載。(例) 転倒
定義	何が満たされていれば標題のイベントが起きたとするか。 (例) 躓き、滑り等により、意図せずに足以外の部分が地面、床、階段等に衝突した場合。他者との接触や交通事故、手すりの破損のように通常は存在しない外的要因が直接の原因になったものは除くが、段差や滑りやすい地面等、通常でも存在しうる外的要因が直接の原因になったものは含める。
記録内容	当該項目について、どのような情報を記載するか (例) 転倒の起きた場所、骨折の有無・・・
情報ソース	当該項目またはその一部について、現場で既に収集されている情報が活用できる可能性がある場合に記載 (例) 転倒が発生した場合、介護記録にある可能性がある
仮説の例	当該項目について情報収集する上で想定される、介入と状態変化やイベント発生頻度等の関連に係る仮説。 (例) 筋肉量が標準より低下している者について、週2回20分以上、歩行に関するリハビリテーションを3ヶ月実施することにより、転倒の頻度を減少させることができる。